

第4回 箕面市小中一貫教育推進計画検討会議 記録

【日時】

令和5年（2023年）4月4日（火） 15:30～17:00

【会場】

Zoom 会議

【出席者】

各構成員等

【議事概要】

●課題への対策に関する検討について

前回の会議でのご意見を踏まえ、「小中一貫教育の目的を達成するための市としての方針」について議論を行った。

（意見）

- ・ 施設一体型小中一貫校は、4年-3年-2年という区切りで一貫教育を進めているが、6年-3年の学校制度で人生を歩んできたかたに対して、その区切りはすぐにはご理解いただけない部分でもあった。しかし、保護者・地域のかたのご理解を得ながら学校運営することは非常に大切なので、その部分がいつも難しいと感じていた。
- ・ 日々の業務が忙しい中、これから小中一貫を進めるということであれば、校長の立場としては、何かを削っていくことが前提になると考えている。
- ・ 学校管理職が、中学校区としてどのような小中一貫教育を進めていくのかというところを持ってもらう必要があると思う。しかし管理職も異動があるなかではそれが難しいとも思うので、まずは市全体としてのある程度の方針があれば良いと思う。
- ・ 呉市の視察報告を読み、指導案をはじめとしたあらゆるものに小中一貫教育の視点を取り入れていること、またすべてのベースが小中一貫教育であるということに非常に感銘を受けており、日々忙しい中ではあるが、ベースにあるんだという意識が生まれることで、動きが変わってくるのではないかと考えている。そういった意識を教育委員会や校長のリーダーシップで作り上げていくことが大切になると考える。
- ・ 以前行った教員アンケートの中に、「小中一貫の文化」という発想があった。すごくいいなと思ったし、前向きに「小中一貫の文化」をどう作っていくのかということは大事なことだと思った。自分の中で「小中一貫の文化」というのは、「つなぐ文化」で、教育大綱にもある「つながる」とも一致してくるのだが、「つなぐ」ということを考えたときに、今日事務局から例としてあげられている方針では、主語が全部学校・教員となっており、それでは現場としては非常にしんどいのだろうと思う。具体方策等も含めて再度考えていく必要がある。校長・担当者が集まって、具体的に話し合っ、学校に持ち帰って、というやりとりが組み立てられるような体制作りをもう1回整理しながら、方針の中に盛り込んでいただいたらいいのかなと思った。

- ・ 呉市の視察に行き感じたこととして、呉市の取り組みが箕面市とかけ離れていることはないのだが、小中一貫がベースにあるという意識の部分は、差が大きいように感じていて、その意識を箕面市でどう作っていくのかが課題なのだと感じた。それを違う言葉で言えば、「小中一貫の文化」という部分になるのかもしれない。
- ・ 小中一貫教育推進連絡会に参加しているが、過去に指導主事として関わっていた頃と比べ、残念ながら中身的に大きく変化してない感じがある。小中一貫教育推進連絡会のあり方もこのタイミングで見直す必要があるのかもしれない。
- ・ 事務局は、箕面市の小中一貫教育の目的として「9年間を一体的に捉え、『生きる力』と『つながる力』を育みます」という内容で検討されているが、これではよろしくないと思う。教育大綱の基本方向でも「子どもたちの生きる力とつながる力を育みます」と掲げていることから、小中一貫教育に関係なく「生きる力とつながる力を育む」と宣言してることとなり、それをこの計画にそのまま使用すると、齟齬が生じることとなる。せめて「育む」のところを「高める」などに変えなければ、小中一貫教育が何を指すものなのかがかえってわかりづらくなる。また、「生きる力とつながる力を育む」は教育大綱の基本方向として小中一貫教育であろうがなかろうが指すものということなので、現在検討している方針については「9年間を一体的に捉える」という部分にかかってくるものである。そうなった時に、これまでの議論では中学校区がどう主体的に取り組むかということが中心だが、主体で整理していけば、「教育委員会は」「管理職等は」「それぞれの教員は」「地域・家庭は」という観点が出てくるはず。しかし今の議論はほとんど「地域・家庭」がない。このような方針を決めるための議論をする際には、観点を設けてやらざるをえないと思う。現在の議論は、それがないうまに、あれも必要、これも必要だという意見交換が進んでるような気がする。
- ・ 今回決めていく方針は、精神論として小中一貫教育が大事ですよねということ訴えるような方針では意味がない。方針とは、今ない施策や活動を生み出す力を持つことが絶対的な条件だと思う。施策と活動というのは、お金がかかるもの、お金がなくてもできるものがあるが、箕面市の現状がそのままスライドするんだったら、新しい方針を考える意味がない。何か現状を変えるような力を持つメッセージ性を持つものとして方針を考えたいところ。
- ・ 主体別の観点であれば、地域とか保護者というカテゴリーというか角度は作ったほうがいい。また、今日の意見交換を聞いてると、管理職が鍵を握ってるように感じられているかたが多いので、そこを何か別立てして方針の一つとするという手があるかなと思った。
- ・ 方針と具体的な施策の中には、保護者とか地域住民の方への啓発、あるいはそういう人々のお力添えをいただくという視点が全然ない。重要な関係者である保護者や地域住民にとっては、一貫教育は自分たちの時代の教育のありかたと異なるため、教育委員会が創造的な取り組みをすることに対して、理解されたい。そういった意味でも保護者・地域住民の方への啓発、あるいはそういう人々のお力添えをいただくという視点は入れる必要がある。
- ・ 施設一体型は、啓発をする機会が多々ある。校区連携型では、やっぱり語るべきは、校長であったり、管理職だと思う。意識が大きく違うという呉市の視察報告にあるように、そういった意識をすべての発信側が持たなければならない

し、施設一体型だけの啓発になってはならないと思う。そのためには、意識というか、ベースになる統一したものが必要だと思う。

- ・ 一貫教育推進コーディネーターが加配されたとしても、その人たちがどういう共通意識を持って、それを広げていくのかというあたりがバラバラでは、やはり力としては不足してしまうと思う。意識の共有だったり、一本化であったりということがなければ、いくら加配をしていっても、結局難しいのかなと思う。乗り入れ授業の加配については、その役割の先生が小学校と中学校をつなぐための具体の動きがあるとわかりやすいと思った。
- ・ 施設一体型で勤務した経験として、地域の方とか保護者含め、教員・子どもがどこに向かっているかという目標が持ちづらかった。児童生徒数が少ない段階では異学年交流も頻繁に行え、小中一貫校の目的などを持ちやすかったが、児童生徒数が増えていくなかでは異学年交流もやりづらくなり、小中一貫校の目的・目標が持ちにくくなった。通常の小学校では、保護者・子ども・先生・地域が全員当たり前の感覚として、6年生の卒業に向かって頑張ろうとなる。しかし小中一貫校では、例えば中期ブロックのリーダーである7年生は部活動では一番下の学年だが学校ではリーダーという矛盾もあり、9年間の理念というところを、保護者・子ども・先生・地域が共通認識するということが難しかった。市全体として9年間のスパンで考えるという市全体の目標がなければ、教員も人事異動があるなかでは難しいように思う。通常の小学校でも、小中一貫教育を意識して中学校と協力しながらやっているが、9年間の中に小学校卒業という区切りがあることは、小学校としても送り出しやすい。小中一貫校では、それを上手に作り上げることが難しかった。ひとつの学校だけで物事が完結すれば可能かもしれないが、教員の異動もあり、保護者も他校区とのつながりがありとなれば、箕面市の中で一貫教育に関するアプローチ（学年の区切り）が異なることが課題だと考えている。
- ・ メッセージ性が必要だと思う。今回議論している方針をつくれれば、Webにもオープンになるだろうから、その時にはメッセージ性は強く打ち出していく必要がある。この方針を作ることによって、さらに小中一貫教育を充実していきたいし、体制をきちっと作っていきたいし、そして箕面市全体でこれを強く推し進めていくんだということを、市民の皆さんに、家庭、地域にもわかってもらいたいと伝える必要がある。その上で「一貫校の文化」をどうしていくんだというところを考えたときに、例えば「子どもの育ちをつなぐ」とか「学びをつなぐ」と「教職員をつなぐ」とか、「子ども同士をつなぐ」とか「家庭地域をつなぐ」とかが候補として挙げられるかもしれない。そんな中で具体の学校で取り組めること、行政が取り組めること、今のままでも取り組めることとか、新たに取り組まねばならないことというのが膨らんでいけば、おのずと方針の切り口も統合されていくことができるのではないかな。
- ・ 本市の学校教育自己診断の中で、小中連携に取り組んでるかという質問項目があるが、保護者からは「わからない」という回答が圧倒的に多い。そういった意味では、今回ご意見として多く出たような、学校とか、中学校区の取り組みを地域・保護者に発信し、巻き込んでいくことが大切なのだと思う。中学校区また市の取り組みを十分理解いただいて、側面で支援いただけるような体制づくりが必要なのだと思う。そのためにわかりやすい情報発信で知らしめていくということが一つのきっかけになるのかなということ考えた。

●今回の検討の結果

- ・ 計画に示す「小中一貫教育の方針」については、本日の資料の見せ方・作り方も含めて、もう一度事務局で検討し、次の会議にお示しする。
- ・ 次回以降の日程につきましては、事務局で調整し、改めてご連絡を差し上げる。

以上